DEATHLESS

六道妖士

7

SEVEN

Rokudou Kyoushi

YOUNG KING COMICS

デスレス

DEATHLESS

大道克士

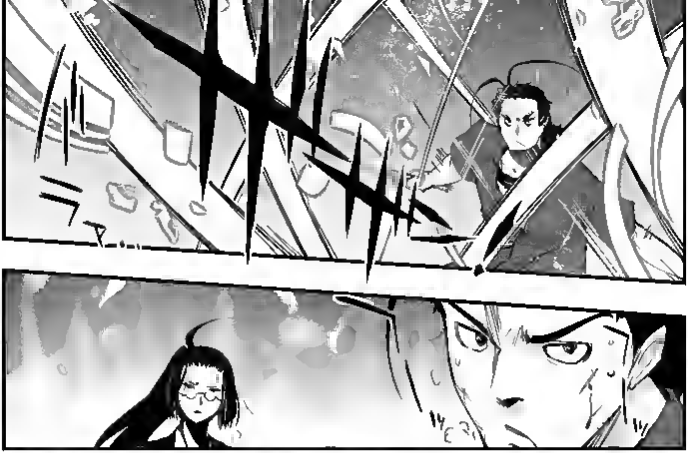
Rikudou Koushi

第43話　共闘するひとたち

ヒュン
ヒュン
ヒュン

…一応
言うとくぞ！
ワシらは
争いに来た
ワケじゃあ
ない

キサマが
さらった
クソじじいを
返しやすぐに
帰るわい！



守られぬならば
孰れ禍と成る

禍は
銷却する

武蔵！…
やるよ！
…おう！
ゴゴ…
ミカサ…
頼むぞ！

バンザーイ！

うむ
うむ
あるじ様！
ご無事で！

本体は確保した…
これで最悪の
被害は回避したな
結局
大きな被害は…
殉教者——
5名か
忌々しい
…

ん…
蔵の中の武具を
提供したのか
申し訳
ありません
勝手に…
テヘペロ
よい…おかげで
被害が最小で
済んだ
それに
あの式鬼はもはや
我らにとっても
害敵じゃ
できれば
この機会に
壊して
おきたいのう
……一応
術具の準備は
しております
…「あれ」をここで
使ってしまうのは
本末転倒じゃな

宮の守のものも
なかなか
やるようだ
多少 手を貸して
やるだけで
こちらの手間を
省いてくれるやも
しれぬ
乙金
すまぬが
おまえの体を今少し
危険にさらすぞ

乙金導師も
本望で
ございましょう
うむ…
心底悦んでおる
こやつも
つける薬が
ないのう

ヒュ
?!
手応え…
あったか！
まだだよ！

ゴゴゴ
目に頼ったら混乱する…
避
ミカサが先を読む――
そのイメージ通りに動く――昔よくやったもんじゃ

ミカサを…
信用するんじゃ
それがいちばんムズかしい
ミシキ
ミシキ
コワい
コワい
ハッ
ハッ
ハッ
式鬼の気配が弱まっておる
…これは想像以上じゃな
手助けの必要はないやもしれぬ
イラッ

早すぎじゃ！
ムリ言うな
相手は手負いだ
気張りな
こうなったら
詰め将棋
みたいなもんだ
桂
飛
と
金

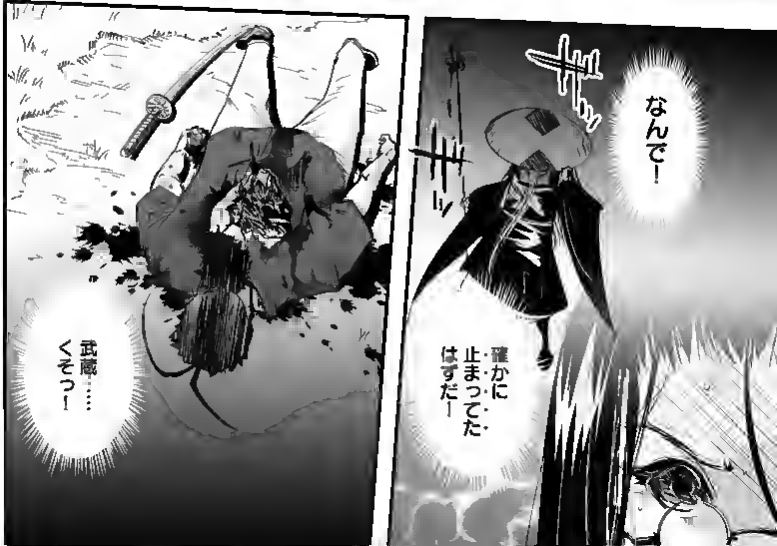
……よし！
通った！

ぐしゃ
ミチ
ミチ
…やった…か？
……
ナキ

――大丈夫だ
…止まってる
…相変わらずズルした気分じゃ
これで勝ってもさっぱり気分がよくないわい
仕方ないさ勝つのが目的じゃないんだ
延寿を探すよ
おお
疲れた～
久々だったね

武蔵？…
そうじゃっ…

な……
しゃりん


なんで！
確かに止まってたはずだ！
武蔵……くそっ！

——アタシになんにもわからないなんて！
いったいどんな仕組みだ！
しゃりん
ヒュン
ヒュン
ヒュン

武蔵!?
ひゅーっ

下がっとれ！
武蔵！
アンタ今
やられたんじゃ……！
ワシにも
わからん！
……ん？
まったく…
油断したわい
フクウ？
フク？
ほんとじゃ
アンタ…
なんで…って
ってことは――！

第一章

ズリ
ミズキ！
来るなと
言ったろうが！
また羽なんぞ
生やしおって！
ありゃー
なんだー

とか言って
あぶなかったじゃん
も――
あーギリ
間に合った
調子にのるな

遺体を
回収できれば
どうにかなる
いやよ
そんなの!

先に延寿を
救出して
ミカサ殿と
ムサシ殿を
回収すれば
逃げるだけで
すんだのだ
大人しく
ゆくと
言ったろう
だって
お爺ちゃんが…

第43話／完

やれ
危ういところだ
こんびにになんぞに
寄るとか言い出す
からだ
スザクも
唐揚げ
食べたじゃない
セーフ…

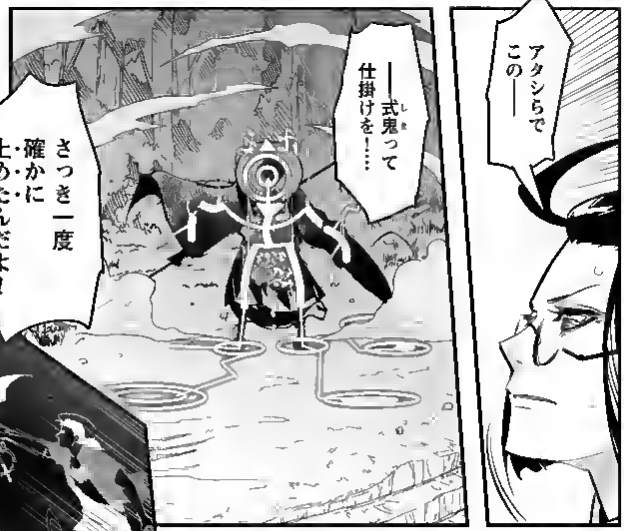
デスレス

DEATHLESS

第44話　まもりつづけたひと

帰れバカもんが！
来ちゃったもんは
しょうが無いじゃない！
ミズキなんぞに
心配されるほど
老いぼれとらんわ！
だいたいなんじゃ
その薄着は！
危なかった
くせに！
この服は
羽が邪魔だから
しょーがないの！
次のセリフ

武蔵お爺ちゃん達は
延寿お爺ちゃんを
助けに行って！
できるか
危なっかしい！
いーから！
そのお坊さんに
スザクが
用事があるの！
スザクさん！


アタシらで
この――
――式鬼って
仕掛けを！……
さっき一度
確かに
止めたんだよ！

だが1分と
たたないうちに
また動き出した!
アタシの
千里眼じゃ
分からない
理由でだ!
気を付けとくれ!
情報ありがたく
了解した
ミカサ殿
うえ…
死なないって
こと?
いや…
どのみちとうに
生きてはおらぬと
いうことだ

いくよ
ムサシ
しかし…
延寿さえ
取り戻したら
みな退却だ
戦うのが
目的じゃあ
ないからね
それじゃ
アレは…
危険な代物かも
しれないが…
この際
仕方ないね
生き返る理屈が
わからなけりゃ
何度やっても
多分さっきと
同じさ
ほっと
くんかい
こっちにも
爆弾(ミズキ)がいるんだよ
来ちまったもんは
しょうがないだろう
すぐ戻る！
頼んだよ
スザクさん！
ミズキが羽目を
外さないよう
うまくやっとくれ
ねぇ
なにより

うわぁ…
初めまして…
思ったより
乾きモノで…
乾きモノ
言うな
みぃらー
天地に
降りきたる
災禍
災禍
蝕災

というわけで
ミズキ殿
ちと
代わってくれ
おっけ！
ガッ
なんか
話通じなそう
だけど
がんばー♡
イラッ
ハァ
アH

昔――
ここより
遠き平野にて
紅き鳥を
とらえた
漢がおった
鳥はもと…
平野に名も轟く
人蝕(ひとくい)の鬼で
あったという

鳥は女となり
そのものらは夫婦となった

嬬子の名は
慧来

そして
慧来は内儀をこう名付けた――

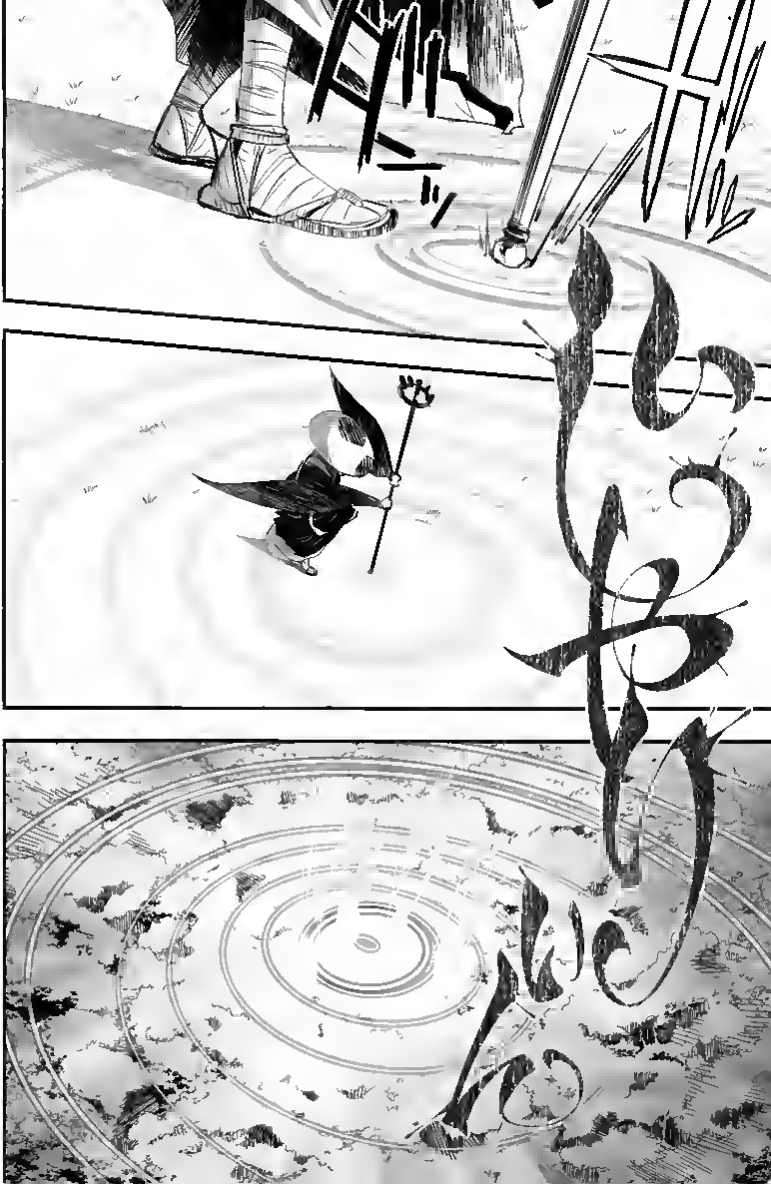
朱雀(スザク)と

延寿！
無事か！
あー
わざわざ
ありがとね
囚われの
お姫様役って
たいくつでさ

動かないで
食べてばっかだから
太るとこだったよ
ブン殴る！
ったく…
ホリ
ホリ
ゼーゼー
さ 急いで
引き上げるよ
てことは
あの坊さんは
片付いてないの？
つまり
ミズキが
抑えてるんだ
危ない事
するなあ
キサマが
言うな！
勝手に
来ちまってね
そういや
アンタと一緒に
掠われたっていう
教祖はどうしたんだい
一足先に教団から
お迎えが来たよ
あいつら…！
やっぱワシ等を
囮にしよったんじゃな！
まあそんなとこ
だろうさ

教祖てな
どんなヤツだい
ん！…
かわいい
子ヘビちゃん？
……あとから
ゆっくり
聞かせとくれ
とにかく
ウチに
帰ってから…
!?

な…なんか
すっごく
キレてない？
ちょこっと
感動的に
盛ったんだがの



むむ…
代わって！
スザク！

オオカミ
つゆ
あっぶな！
災禍
封印！
封印！
全ての
……を始動！

——喰わぬうちに
——封印を
ズ
ズ
……喰われた！
鳥は…
喰われた！
ズズ

えっと
これは？
ムサシ
お爺ちゃんしゃ
あるまいし
刀なんて…
落ちとった

どうなの？
昔の彼氏？
うるさい
わからぬ
反応があったのは
確かであろうが…
いきなり
キレられるほど
ひどい別れ方じゃ
なかったよね
待て
なんでミズキ殿が
そのようなことを
知っておる！
うわ来た！
ドドドドド
ら
ら
ら
ら
ら
ら
ボム
ボム
ボム

キーャ～
あぅぅ
……なんじゃこの怪獣映画は
さっきまでと全然違うぞ…

多分この山全体が
仕掛け…というか
要塞みたいなもん
なんだろう
さっきまでのが
防犯装置
だったとしたら…
今のがこの要塞
本来の機能
なんだろうさ

山全部
要塞じゃと？
そんなもん
いったい誰が
さあ…
ヘタすると
アタシらの
御先祖様
がらみって
こともある

いったい
なんのため…
ミズキの
中にいる
化け物用に
決まってる
悪い流れだー
まったく
あの子ぁ…
調子にのって…

おー切れる
切れる！
おい！
危な…
ボロッ
ハ、ハ、痛ぁ～

ズニャン
もうっ！
ミズキ殿！…
落ち着くのだ
うん
わかってる
約束だもんね
大丈夫…
抑えるから…

でも
ムカつく！
これって
ただの仕掛け
なんだよね！
壊すよ？
お？
おお

ふん！
あたし強い！
ヤキ！
わかったわかった

あやつは
夜叉では
なかった……
やはり
宮の杜の禰は…
割れておったのか
ドドド
オオオ
しかし
我らの知らぬ
この山…
在野の術士の
仕業か？
このような
所で封印される
わけには
ゆかぬな
ズズン

オロロ
オオ

ドドド
ドドド

間断無き摩耗
封ぜよ
封ぜよ！
ミズキ殿！
大丈夫――頑張る――
ミズ…
ちょっとだけ…キレていい？
ヤ
ヤ
ヤ

彗来

ENOK

デスレス

DEATHLESS

かたちあるもの
全て塵にか…
大食らいめ
やれ
大自然の敵だの
…いつか
植林する！
だいたいアイツ…
なんかモロいわりに
効いてなくない!?
ひとつのものでなく
羽虫の群れのような
モノのようだの
手応え
ないし…
先日の
死体人形どもと
同じだ
かりそめの
かたちゆえ
一時の時しか
持っておらん
消耗戦の予感が
するの
他人事
みたいに
ここがはげ山に
ならぬうちに
かたを付けたい
ものだ

第45話　もういないひと

こーゆー敵
延寿お爺ちゃんの
ゲームで見た事ある
ほう
そのときは
どのように
倒しておった
敵をひとつに
まとめてから
攻撃か…
敵の中心とか
弱点を見つけて
攻撃…みたいな
やっぱ
あれかな
スザクの
元カ…
元ダンナさん
妙な表現を
するな
…ミカサ殿の
情報によれば
あれも「弱点」では
ないようだが…
試しに
食ってみるか
いいの？
だから
妙な気を
廻すなと…
あ

ゴゴゴゴ
……
ゴゴゴゴ
ドドドドドド
ズドドドドドド
ズドドドドドド
ズ

なに
やっとるんじゃ
アイツは
なんか
屁っ放り
みたいだよ
とにかく
こうなったら
逃げの一手だ

ほっといて
ええんかのう
延寿も助けたし
アタシらが
安全地帯に
退避すりゃ
戦う理由なんか
ないんだ
あとは
スザクさんを
信じるさ
ミズキよりは
冷静だしねー
む…

出おったな
女！
…強く反論できんのが
辛いところじゃが
わらわの手下に
禁止用語を付けて
呼ばんでほしいな
…ん？
中身が
違うのさ
なんでもええわい
邪魔しに
来おったんじゃろ
休戦協定を
破棄したいんなら
わしゃかまわんぞ
わらわは忠告に
来ただけぞ
ぬしらはまだ
去ぬるべきではない

ズズズ
ズ
いそいそいそ

おッけらーッ！
ムー
田鼠（モグラ）であろ？
どのみち
キモい！
あんまし
見たくない！

食べるよ！
痛いかも！
うむ…
ズル
ズル
惜しい
！

人には稀なる能者
消ゆるに惜しい
千年の守人となれ
我らは
ひとで
ないものの
総代
この地に眠る
「羅喉」の番衆
「羅喉」とは
「羅喉」とは
一時先か
千年の後か
ひとたび
目覚めれば――

ひとを
あやかしを
天地凡てを喰らう怪物
凡て——
ならば
我が永遠の
肩も——
ぶはっ

いたた…
なにか
見えたよね！
一応…
止まった
けど…？
ひとではない…
そりゃね…
そうではなく…
これはひとの
陣営のものでは
ない
なんか
動いてる！
吾やカマドの
ような…
ひとでない
ものたちが
用意した罠……
…いや
防衛装置と
言うべきか
？
どんな？

異変を感知すれば
目覚め――
まずは
めぼしい異能の
持ち主を捕らえて
隔離する
なんで…？
喰う…いや
取り込まれぬように
ミズキ殿が
吾を喰らい
吾のちからを
身に付けたように
このように
異能の持ち主を
喰らって
手の付けられぬ
強力な魔物と
ならぬようにだ
あたし？

隔離して
そのあとは…？

敵が
どうにかなるまで
監禁するか…
おびき寄せるための
餌にするか…

場合によっては
防御機構そのものの
補強に使う――

ドクン

――きがえった

このように…

ふ…

我が鳥に
永劫の幸いを
は
そのような
甘やかな言葉
生前はついぞ
聞かなんだぞ
直に言え
直に
我が鳥に
永劫の
守護を――
…
あれからお前は…
ずっと…
ずっと…

我が鳥は…
喰われた…！
大莫迦者！

吾を未来永劫
影ながら
守るつもり
だったとでも
いうのか…
重いわ！

お主はひとの生に…
ひとの寿命の限りに
こだわって
吾から去ったのでは
なかったか
なんという態だ
簪来！

それを
妖物どもに
いいように
のせられて…！
なんの安息も
なく…！

……
ミズキ殿…
吾は…
あの莫迦者を…
楽にして
やりたい…
うん…
だよね…
そーしたいけど
どー倒したもんかな
キリがないって
いうか…あはは！
は……

あ…ごめん
ちょっと
さっきから
楽しくって…
ミズキ殿…
大丈夫…
約束だもんね
ガマンする
ん〜ッ

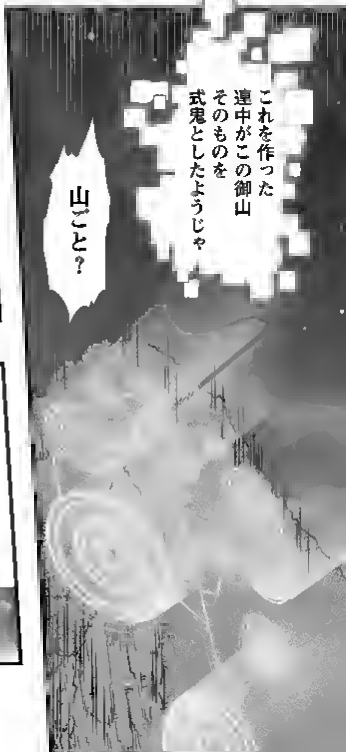
ドドド
いかん…
限界か…
？
フクウ？
なにか
あったのか？

こら乱暴に扱うな
スー
ハミ
ゴルルル
……？
フクウ？
ガク…
夜叉どもよ…
わっ しゃべった！
おお

いや…
夜叉とは
いえぬのか…
不空が斯様な
姿になっておることで
気付くべきじゃった…
…まあ今は
おいておこう
誰!?
わらわは
「美斉智のあるじ」
じゃ
ぬしらとは
一度会ったのう
あ…
そのあるじが
なんの用だ
いま忙しいん
だけど!
その
式鬼のことじゃ
もう囚われ人は
おらぬのに
ぬしらは
引かぬのか?
引くはず
だったん
だけど——
ちょっと
ワケあって
ほっとけなく
なっちゃって
ふむ
わらわも
賛成じゃ

これは
放置しておっては
いずれ関係の無い
ものたちに被害が
出るじゃろう
ああもう
仰々しく勿体ぶって
おらんで
なにか策があるなら
話さぬか
まあまあ

――まずは
この山…
山？


これを作った
連中がこの御山
そのものを
式鬼としたようじゃ
山ごと？

そんなところで
あろうな…
そして
この御山の地脈の
いずこかに術の
本体を置いたんじゃろう

それを潰さんかぎり
この仕掛は止まらぬ
本体が別に
あるであろうことくらい
察しはついておるわ
どう
どう

もっと
役に立つことを
知らせんか！
うむ
そうじゃな
その本体を
探す方法について
提案があるのだ
ほう？……
いやあの！
できれば急いで
ほしいんだけど！
あゎ
あゎ
な…

貴様…
この有様を
理解したうえで
そのようなことを
言っておるのか
なるほどねー…
血迷うな
ミズキ殿！
やはり
ここはいったん
退却を…
スザク
大丈夫……
多分
ギリ…
いやそれは
大丈夫では
なかろう
ちょっと
試してみたいことも
あるし
だから
ちょっと待て！
目が据わって
おるぞ！
ウ…
キュ～
ス…

大丈夫かフク！
どういう話だったんだい
……うむ乗り気であったよ
わらわも意外だ

ミズキ！
なんて格好…
お婆ちゃん！
ごめん！
あとから
説明する！
え……
うわわっ！

ゴオオオ
ミズキ!?
まさかアンタ…
ミズキ殿！
おい
取り返しのつかぬことを考えるな！
ミカサ殿を喰うなどと！
…ちょっとごめん

第43話／完

式
SHIKI
鬼

デスレス

DEATHLESS

どうしたんだいミズキ！
お待ちったら…！
なんでアタシの時を…！
…!?
違う！……
ミズキ！…
お前！
喰ってるのは時じゃあなくて…！

第46話　遠くからきたひとびと

まったく…
大概責任が持てぬ…ん？
どうしたフクウ…
おい！
えい次々と…
吾が身が本当に無能に思えてきたわ

お
お
お？
本当にやりおった…

おい なにが 起きとるんじゃ！
さて
わらわは可能性の高い「理屈」を提案したにすぎぬ
具体案はあの夜叉もどきまかせじゃ
なんじゃそりゃ…
ヤシャモドキってミズキの…おわっ!?
なんじゃあ!?
これは…

ミュウ
?
不空(フクウ)…?
!!
カッ

なんじゃ
この子供は!
!!!!
おいフクは
どこいった!
ふむ…?

思うたより
小食じゃのう
記録とは少々
違うようじゃ
ヒュウ

ここは…
アタシャいったい…
……ミカサ殿？
誰だい！
ミカサ殿はこの姿は未見であったか
うむむ
って…スザクさん…なのかい？
てことはここは……まさか……
うむ…吾はたった今まで単純に――
「ミズキ殿のなか」
――とばかり思うておったのだが…
ズズズ

ウ…
そうかい…
これが…

こいつぁ
また
なんて
ザマだい
川ガクだし
……面目ない

…これが喰われるってことなのかい？
吾もただの今までそう思っておったのだが…
？
さっきから煮え切らないね……ん？
ありゃあ…
フクウ？…
あれがフクなのかい？
うむ…元の姿に戻っておる
おそらく…ここの人数を増やさぬようにしたのだろう
どういうことだい
ミズキ殿なりの暴走を抑える工夫だったようだが…
それでも刺激が強かったようだ…
ミズキのやつ正気を失いかけてんのかい…
ふぅ
はあ…

うむ…
思ったより
一杯一杯な
ようだの
なんて
ザマだい
とにかく
ミズキ殿が
この有様では
我々でなんとか
する他ないのう
ああ
頭が混乱する

で…
アタシを喰った
理由は？
あの
阿呆教祖が
ミズキ殿に
余計な事を
吹き込み
おっての

あの式鬼の
本体を
探すなら
「千里眼」を
取り込めば
よい
——とな
早速ミズキ殿の
ことがばれて
おるし…
不覚

とかく面目ない…
あの式鬼にこだわる羽目になったのは吾のせいなのだ
どうせミズキが突っ走ったんだろ？
ま詳しい事はあとだ
とにかくこうなりゃ一刻も早くあのバケモノを壊して一息つくのが先決だよ
あれを視りゃあいいんだね？
話が早くて助かる
これがフクじゃと!?
キサマ！何をした！
何かしたのはわらわではないのだがな
しかし…それが懐くとは珍しい

ミカサ殿
頼む
ああ
……
ミカサ殿
どうした？
…スザクさん
悪い

イマイチ
わかんないよ
ーーと。。
構造がうっすら
「視える」だけで
それ以上は…
なんだと？
話が違う！

きぃぃ
阿呆教祖の
もっともらしい
戯れ言を
真に受けていい
面の皮では
ないか！
うーん…

言ってる場合じゃ
ないか……
仕方ないね…

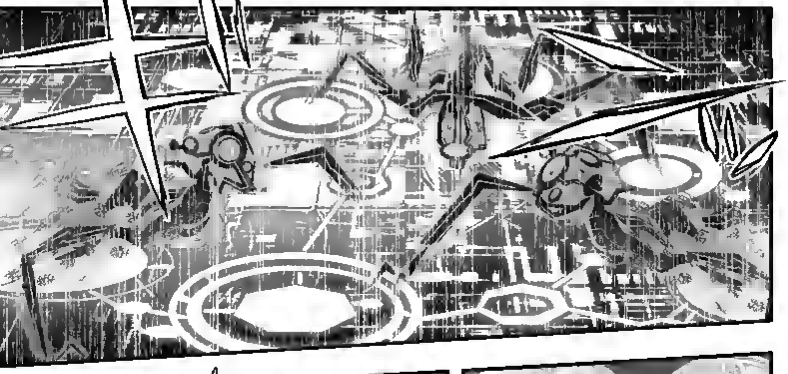
スザクさん…

ここのなかの
時ってな
どうなってん
だい？
む？
ア…ッ

ふ…

ようやく
本気を
出すか
い…

折角 夜叉まで
使うて若返って
おるというのに
なぜあの千里眼が
半端なかたちを
しておるのやら
不思議じゃった
おい…
まさか
ちょっと
待たんか…
単なる遠見や
失せ物探しの力なぞ
「千里眼」の表面的な
能力に過ぎぬ
「千里眼」とは
本来此方の裏側
かたちなきものを
暴きたてる傲慢
きわまりない
視界のはずじゃ
やかましい！
ミカサ！
あのバカ…



おお…
段違いでは
ないか

なぜ
最初から…

はッ！
真打ちは
勿体をつける
もんさね！

見える…
凡ての許等和理が察るよ！

ミカサ殿様子がおか…
ッさい小娘！

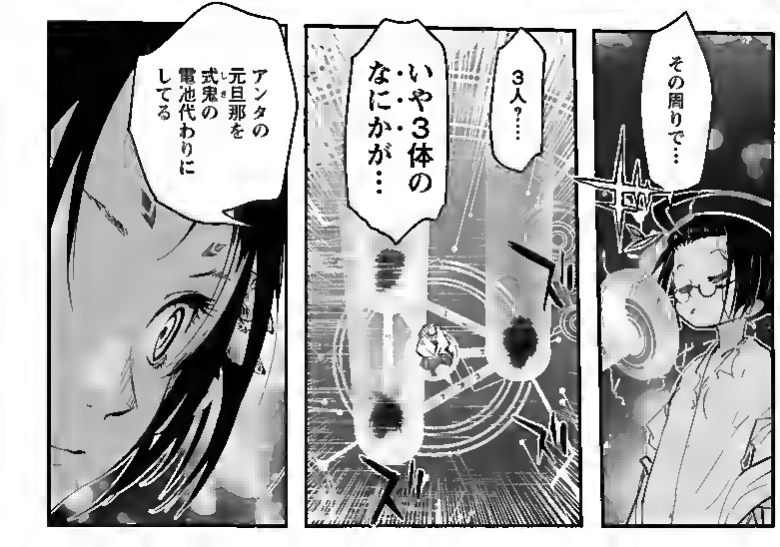
な…こむす…
あ？
よもやニンゲンに言われようとは…
ぶひゃひゃひゃ！

オトコ見送って
ガン泣きとか
小娘じゃないか
んなッ…
んでミズキにゃ
視えなかった
みたいだが…
結局そのあと
同じような
良人(オトコ)が何人も
いたんじゃ
ないか
しゃ
3人だけだ
何人もとぉ
ま 最初の
ダンナだし？
初夜に
うれし泣きまで
した相手じゃ
気にもなるさね
どれ他には…
いや待て
ミカサ殿？
見るな
そんなに
酷いのか
アイツに
心を砕かれた
大人を山ほど
見たもんじゃ
おぅッ
ワシャ
幼ない頃で
ある意味
幸運じゃった

僕は
はじめて
見た
ヘー
って
それだけじゃ
ないんじゃ！
あいつ
無茶しおって！
う～わ～

3人目の
情人とか
アンタそりゃ
犯罪だよ
いやもう
なんというか
吾が悪かった
その話だけは
ナンベンも
頼むから
協力願えぬか
ああ
あの式鬼だろ？
根っこは
地下にある
みたいだよ
丸見えだ
すさまじい
ムサシ殿が
びくついておった
わけだ

アンタの旦那は
地下の
隠し室にいる
…たいしたもんだ
死んで
これだけ
力を残せる
術者なんざ
歴史に何人も
いやしない
……っ
ああ…
であろうな


その周りで…
3人?…
いや3体の
なにかが…
アンタの
元旦那を
式鬼の
電池代わりに
してる

なるほど
キリなく湧いて
くるわけだ…
アンタのダンナは
こいつらに利用
されたみたいだね
ミカサ殿…
…案内(あない)を
ドドドドド
ドドドドド
ドドドドド
ドオン

デクラメだね
モグ？
…ミカサ殿
代わってくれ
まあ待ちな
やっぱり
この周りの3体は
見た目通りに
ここにいないね
いない…？

今のアタシにゃ
なにも
隠せやしないよ
みえる！
アタシの
若い頃より
ずっと瘦(そう)る！
すごいね
このカラダは
ラ
厭来(エンライ)！
…？

なるほど…
こんなところに居やがったのかい
いやミカサ殿！
これは はるか往昔の記録…
幻影であろ
慧来の…
あの頃の姿か…
ああ…
幻だともいえるね
ミカサ殿？
予知が効かないはずさ
はン…
こっちに気付きゃあがった
こいつらは時の向う側
過去にいるんだよ
……？
それは当たり前のことであろ？……

……たった今まで
この罠はなかった
過去から
アタシらの
侵入っていう
未来を予知して
ぐっ
んっ！
痛ッ
ぐっ
ミシッ
対処したのさ
ミシッ
…な…
まったく
大仕掛けを
作ったもんだ
よほど…
恐かったんだ
ろうさ
なにかが…

実際こりゃどうしようもない
まだ
ミタッ
おそらくここを壊しても無駄だろう
ヘタすると場所が代わる
こりゃ無視して逃げたほうがよさそうだ
く……
ミズキ殿！
はぁ
はッ
はぁ
吾に大見得を切ったであろ
指一本…髪の毛一筋でよい無理を通してみせよ
無茶ゃ
吾はこの愚かな男に…
伝えたいことがあるのだ

ゴゴゴゴゴゴ
?!

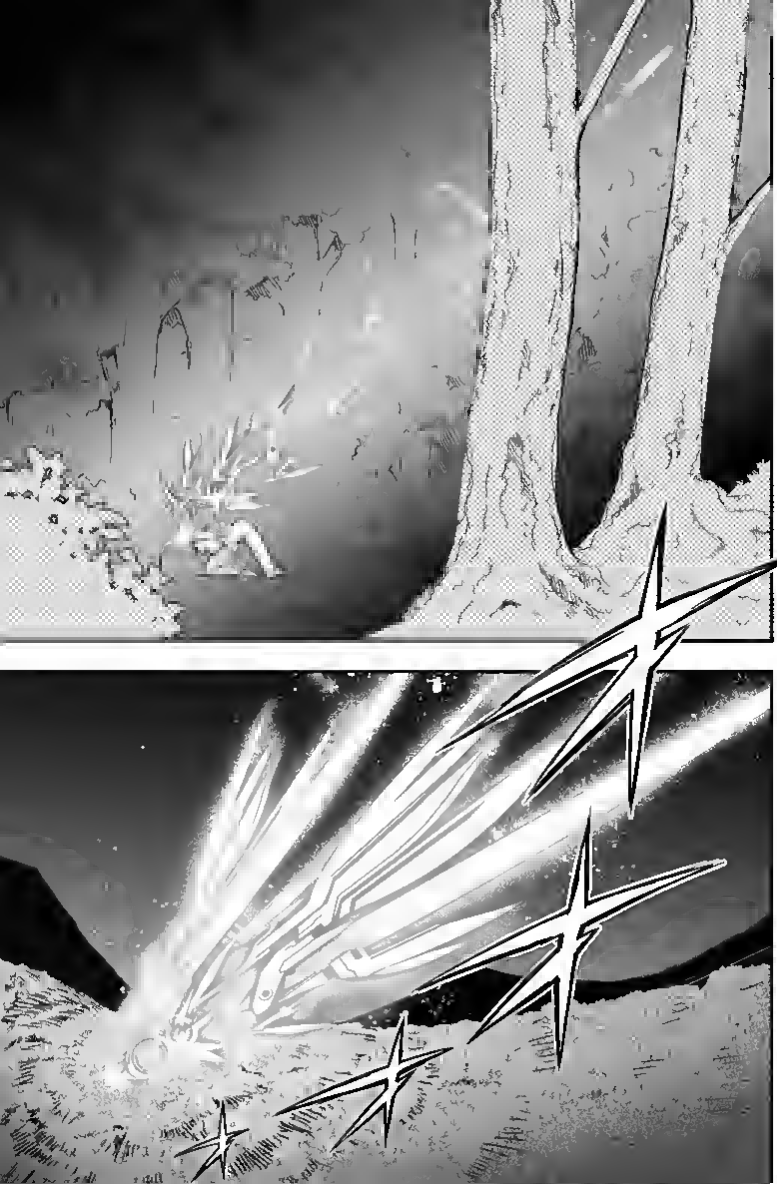
は……
……出鱈目だ
ズズズ
腕一本…
メリッ
ズズズ
時間を
越えやがった…

……ぬし
ひとの良人(おとこ)に好き放題をしてくれたの
ギィィ
ギィィ
ズズズ
おお

この気配は…
我が「扉」か…
おまえの永劫が…平穏であるように…
吾が…護ろう
ああおまえ様
ありがとうよ

第46話／完

第47話 外側のひとびと
ズゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ



はぁ
はぁ
はぁ
もうよい
ミズキ殿！

ゴロン
ひなもぉあ
ゴロン
おふぉぉ
ポニョン
オ
オ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ

あ――
あっぶなかったっ

まったくだの
そのまま
空の果てに
飛んでゆきそうな
勢いであったぞ
はは…
気持ちよくて
ほんとに翔んで
いきそうになった…
ったく
危うい…
しかし
よく…
頑張ったの
お
スザクに
合格もらえたの
初めてな気がする
おー
吾ながら いつも
激甘の採点をして
おるのだが
不思議なことだの
えー
ふふ…

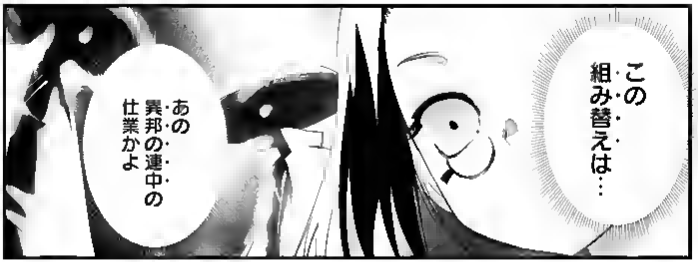
気懸だった
阿呆を
看取ってやれた…
礼を言う
礼まだ言われてねえ
ナオ
今度
いろいろ
聞かせて
コイバナ
未通女には
刺激が強い
話ばかりだ
フン
おーい！
あ
お爺ちゃん
ミズキ！
ガン

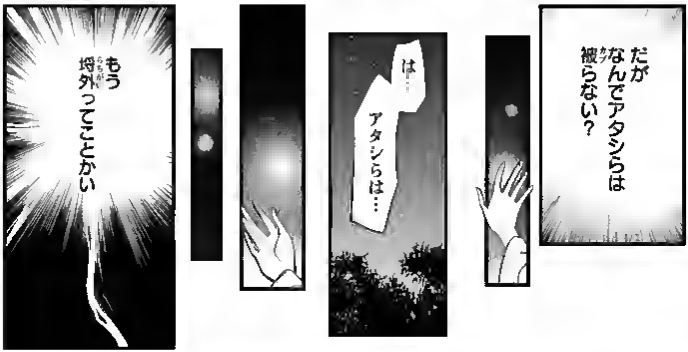
なんちゅう格好じゃバカもんが！
ゆっ
ぁうんごめんなさい
とにかくラスボスっぽいのなんとかしたよっ
おうよくやった！…じゃのうて！聞きたいことが山ほどあるんじゃ！
あそっかフクウ…
それだけじゃないわい！
ってその話も後じゃ！
ミカサはどうしたんじゃ！
お姿ちゃん？

ミカサ
お婆ちゃんなら
そのへんに…
あれ？
……逃げおったか
おいスザク！
？
なんだ
ムサシ殿
ミカサのヤツぁ
いくつくらいまで
戻りよったんじゃ
あ
さて…
10歳前後か…
やや下かも
しれぬの
あれは
それが
なにか……
やはり
丁度
ピークか！
ちっ
？
まずい！

一刻も早く
ミカサを
捜して
戻すんじゃ！
どうしたと
いうのだ
ムサシ殿
だいたいなぜ
ミカサ殿に
逃げる理由など…
は！
ババアなんかに
戻されて
たまるもんかね

ひひ…
あの中
ほどじゃあ
ないが
よく見える！
なにもかも察える
凡てがわかる
元になんぞ
戻れるもんかね
！？


この
組み替えは…
あの
異邦の連中の
仕業かよ


だが
なんでアタシらは
被らない？
は…
アタシらは…
もう
将外ってことかい

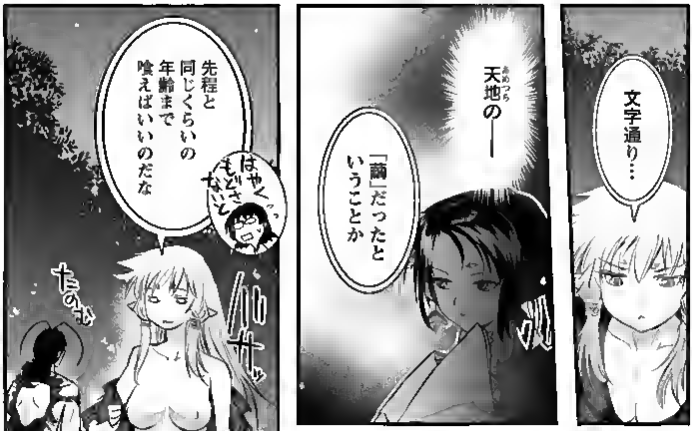
じゃあここは
どこなんだい！
壺の中だとでも
いうのかい！
アタシらは
どこへいくんだ

確かに別人かと思うほど暴走気味ではあったが…
幼少時とはいえあのミカサ殿であろ？
そこまで分別がなくなるとは…
あの頃のミカサは別物じゃ
ゼェ
ゼェ
小さい頃でワシやあまり覚えとらんが延寿より酷かったじゃろうな
ミカサ！

ミカサ
お姿ちゃん？
理由は
わかって
おるのだな？
…外に出よると
こうなるんじゃ
見えすぎる
らしくてな
…みえすぎる？
オーバーヒート
みたいなモンじゃ
なかろうかと
むう…
言うては
なんだが…
よくここまで
生きてこれた
ものだの

ウチの
結界の中じゃと…
抑えられとった
ようじゃ
あ…
延寿も
同じじゃ

ワシャ
まともなほう
じゃった
二人とも
能力が
落ち着くか
弱まるまで…
ウチを
出られん
かったよ


文字通り…
天地の——
「萌」だった
ということか
先程と
同じくらいの
年齢まで
喰えばいいのだな
はやく
もどさ
ないと
ナニカ
ナニカ

若い衆はゲンキだね～
山道とかムリ
ヌ…
パコーン
アウッ
グリ
グリーン

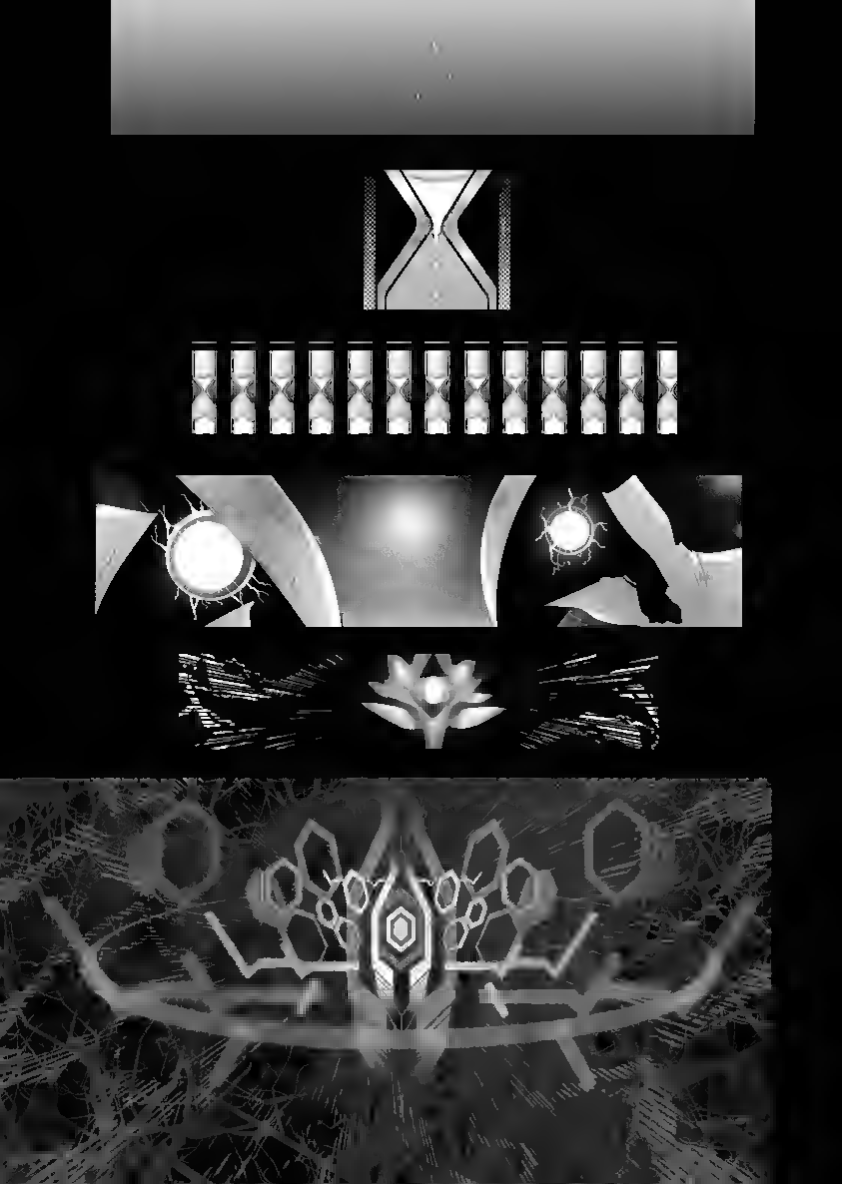
おや
オールドな
クズの人！
どこです
ここは？
さー
現代っ子なんで
星から測量とか
できなくって
山腹としか
グッド
ナマステー
ゴッ
おやまだ
お山だ
うまし！
うざいなー

あれ
「教祖様」は？
…お帰りに
なられたようです
君らって
どーなってんの？

はて…あるじ様は
お見とどけに
なるつもりで
わざわざここに
お留まりに
なられたので
しょうに
もしやお疲れに
ならりるたのれ

とにかく
気配がしませんね
ひへは
……
……？
もっとわたくしの
身も心も酷使して
欲しかった…
おーい
おーい
乙金は
どうでもいいが
延寿ー
さっさと
帰るぞ――っ！

狂った夜がやっと明けた…
かな？



——水城です
長い夜が
終わりました

日常が……
――微妙に戻ってきてません
なんでわしだけこのままなんじゃ
男手一人くらいいたほうが便利だし色々片づくまでそのままでいな
ふざけるな！

やれやれ…
それにしても
ひどい夜
だったね
はっはっ
まあみんな
無事なのが
なによりさ
なにを
いい話のように
元は貴様が
先走った
せいじゃろうが
偉そうに言うな！
おかげで
こっちは
あんな連中と
協力するハメに
なったんじゃ
ったく
まあ敵さんの
本拠地も
わかった
ことだしさ
カマドさんに
まるごと
たいらげてきて
もらうってのは
どうだろう
おや
ごはんのお話で
ありけりますか？
ゆうげのじかんでも
ミャリ
弱体化しておる
今が攻め時やも
しれぬな
ダメだから
ゴゴゴ

お姉様！
朗報なのです！
秋葉さん…

朗報…なのか
ちょっと
混乱している
ところですが！
混乱は肉欲で
静めるのです！

落ち着いて
話せ
では
順を追って
おっぱいから
その順序
サイテー

コホン
わたくし
秋葉は…
延寿様を拉致した
にっくき
「実済智の光」への
報復として
陰湿な工作戦を
仕掛けるべく
準備していたのです！
「実済智の光」？
あの連中の
団体名だよ
はん？…

「ギリギリ合法？
かなりグレー
もはや真っ黒な
有形無形の嫌がらせ」
をひとつひとつ
ぽたぽたと
丹念に熟考し
クックックッ
結果的社会的な
抹殺については
脱税と薬物疑惑を
仕立てるという方針で
……朗報とやらを
先に聞かせておくれで
ないかい
……
それが…
その…
無いのです
無いって？……
無いといっても
生理のことでは
ないですよ？
そりゃ
無いさ
身に覚え
結論言わないと
殴るよ？
アン
そんなプレイも
たまには！
ガーでした。

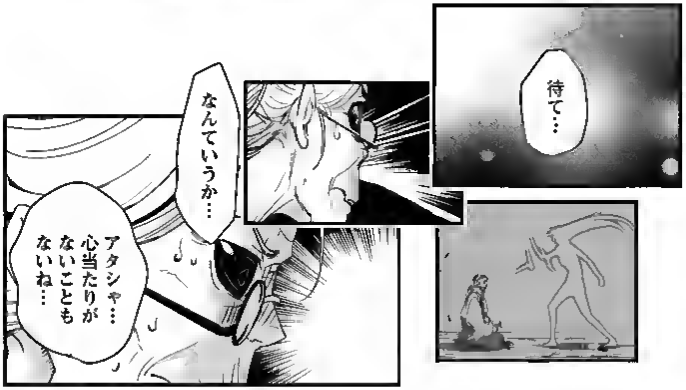
無いんです——
あの宗教団体が
いえ…もとから
「実済智の光」なんて
どこにも無かったって
いうか…

?……
名前が
違っとったっ
ちゅうことか?
いえ
情報が
間違ってた?
延寿様に誓って
秋葉は——
少なくとも一度は
確認したのです
「実済智の光」
という
宗教団体に
ついて

ま…
その情報で
僕 実際に
訪問したしね
あの施設は…
ただの臨済宗のお寺
だったことに
なっているのです

連中が
夜逃げしたって
ことかい?
いえ…その……
一度は確認した
公的書類も
何もかも
night-run away
本舗

何もかも…
その…
最初から
無かったことに
なっているとしか
とにかく
敵が消えたのです


待て…
なんていうか…
アタシャ…
心当たりが
ないことも
ないね…

……
どういう
ことだ?…

はいはい
テリン…
もしもし
みやのもりで…

もしもし
ミズキか!
あっ。

ちょっと
自分に自信が
無くなってよー
確認してぇんだー
松川殿が？
うん…？
今：大町がアパートに来ててさ…
いや…確かに以前はよくあったんだけどよ
うんうん
また
オフクロさんと
ケンカしたって…
大町殿の母君は…
さすがにツッコむわけにもいかなくってよ…
色々考えちまって…とにかくアイツんちに連絡したらさ…
電話に大町のオフクロさんが…！
いつも通りにオレに「ヨロシク頼みます」って…！
第47話／完
いいことなのか――
なあ…！
オレがおかしいのか？
悪いことなのか――
ミズキ…
――おまえはどっちだ!?
何かが起こっていて――

宮森ミカサ

MIYAMORI MIKASA
of the FUSANT

デスレス

DEATHLESS

だいたい
――ン…
あのひとは
いつも
勝手なんら

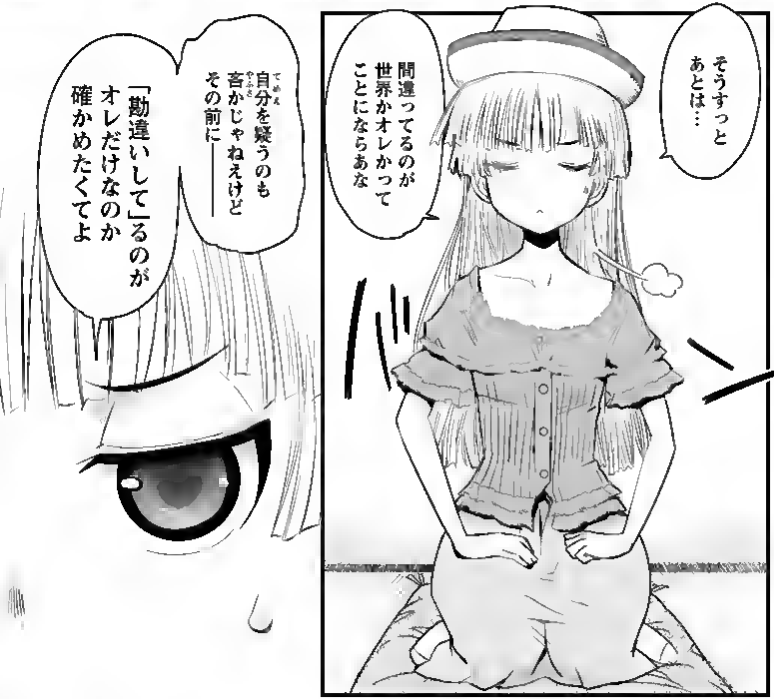
どれだけ父と私が
振り回されたか
うんうん
今朝も昨晩
父の用意していた
夕飯を手も付けずに
捨てたりだな
うんう…
ん？

思いやりというものがないのだ
正直 父も不甲斐ないと…
ガラ
昨晩…？
聞いてるかー
ああ…おフクロさんの話だよな
憲法
刑法
そうだあのひとのことに決まっているだろういつものことだ
今日という今日は怒りを通り越して私は――
大町（アイツ）…
まさか自宅でもあんな調子なのか？
…

もしもし
夜分遅く
おそれいり…
あら
松川さん？
ああ…
あの子また
そっちへ
行ってるのね
ソソソソソソソソソソソソ
あの…
もしもし？
また2～3日
おねがいね
ほんとに…
ひばりさん？
どうしたの？
おたがい名前で
呼ばれるの
キライでしょ？
小鳥ちゃん
…い…
お元気そっすね……
？
当たり前
じゃない
まあ弁護士なんて
体力ないと
やってられな

第48話　かりそめのひとびと

これが…世にも
不思議なアレとか
トワイライト
なんたらとか
タチの悪い
怪談じゃ
ねえってことも
別口からも
確認した


そうすっ
あとは…
間違ってるのが
世界かオレかって
ことにならあな
自分を疑うのも
吝かじゃねえけど
その前に――
「勘違いして」るのが
オレだけなのか
確かめたくてよ

…
といってもアタシャアンタから聞いたことが全部だからね
ハッ。
あたし…ニュースで見た…
別口で確かめたってなんだい？
これだけどよ
スッ
図書館でとってきた地方版のコピーす
新聞かい…
結論から言うと大町のオフクロさんを殺したってオレたちが思ってたヤツ…あ
うん…知ってたから

あぁ…
そんな場合じゃねえな
そのクソ野郎だが…
オレが知ってる事件と同じ日に
まったく別の強盗の現行犯で捕まってやがる
アンタが嘘を吐いてるとも思わないが
アタシャ元の事情を確認してたわけじゃあないからね
――っす
オレも自分でなに言ってんだって感じすから
じゃあ…
ほんとに…
ガス…
大町の…
生きてるんだ…
よかった…
ホロ
ホロ
ホロ

……

だな…
オレの記憶にある…通夜の様子とか
大町のへこんだツラのこととか考えりゃ
オレの記憶や正気なんざどうでもいいっちゃいいんだけどよ
……

ええい嬉し泣いとる場合ではなかろう
おわ

大体の事情はわかった
おっすスーたん
ミズキは？
うむ
ミズキ殿はこの事ではちと色々と溜めておったからのしばらく放っておく
よかった
よかった
ホ～
おー
ナニ溜めてたってんだ
身勝手な罪悪感だ
――それより

松川殿が慌ててこちらに確認を要するということはもっと決定的なことがあるのであろ
おうさ
スーたんにゃかなわねーな
温泉行ったときのハナシだけどよ
温泉……

てゆーか行った温泉！
まちがいなく
ーつむ
美食と癒やしの桃源郷であった
臭ぇ天狗に襲われたよな!?
…あの鳥なら屋根の上におるぞ
ガルポー

わりい
確認しねーと
自分でも混乱
しててよ

んでもあの
ボケオヤジの
ヤローが

今年はもう
来ないのかい
小鳥ちゃん

キミは
わがまま
だから
友人は
大切に
しないと

大町さんと
ケンカでも
したんじゃ
ないだろうね

――なんてこと
言ってやがるし

ああ…
大町（マチ）の件で
動いたこと
全部だ！

色々確認してみた
わけだな？

なかったことに
なってやがる！

やっぱ
オレの個人的な
記憶違いだけじゃ
ねえんだな？

こりゃ
なんの陰謀だ
ああ？

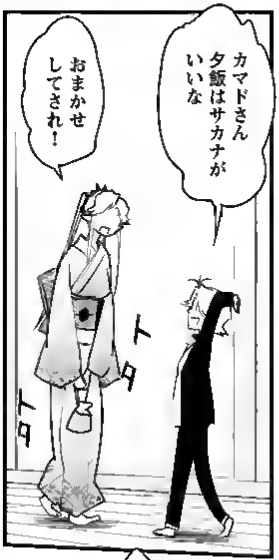
吾には…
この事態について
心当たりがある
これは…そう
おそらく
陰謀なのだ
だが…松川殿の
言うような
意味合いでの
「陰謀」ではない
いんぼう
吾は先日の事件の
渦中にあることを
した
今の有様は
おそらくその
影響だ

……ミカサ殿は
先日の事件について
中途より記憶が
無いのだったな
ああ…昔から
あの頃についての
記憶は断片的なのさ
精神を安定
させるため
なんだろうが…
現実がどれだか
わからなくなるくらい
狂った視界だった
からね…
……うむ
言うては
なんだが
ぶっ壊れて
おった
そのことも含め
松川殿に説明するが
よいか？
ああ
かまわないよ

♪はーりら
♪はーりれ
おつかれさまでいてございませ
……どうも
ここ数日…日中にお出かけですが
ニヘラ
なにか用事でも？
はれ
すみませぬでして
ひみつなのでしてまする

バケモノにゃ
愛想よく
しないんじゃ
なかったのか
うるさいですね
♪はーりら

あれは
人語を解する
猛獣のようなもの
です
他所で
腹を満たしてきて
くれるなら
いいことじゃあ
ありませんか
ただいまなのでして
おめぇ
感じ悪ぅ

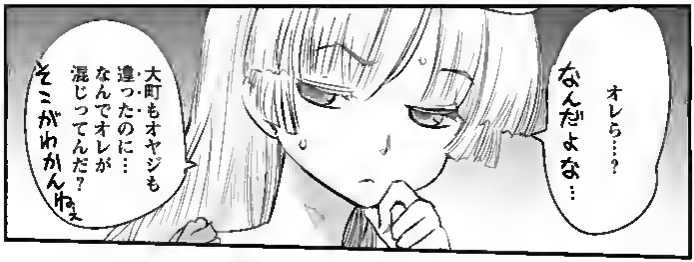

カマドさん
夕飯はサカナが
いいな
おまかせ
してされ!
トタ
トタ

どこも
タイヘン
だぁ
なんだって!?

過去を…
変えた？
…おそらく
あのとき
われらは…
ミカサ殿が
映し観た「過去」に
おいおい
SFかよ
干渉した

タイムパラドックス
ってヤツかい
おー
バーちゃん
すげえな
ぱらど…
バカにおしで
ないよ
「タイムマシン」て
映画なんざ
40年前に観たき
タイムパラドックスて
言葉自体に矛盾を
感じるけどね
むむ
とにかく…ここは
アタシらの知ってる
「世界」と微妙に違う
「世界」なわけさ
それを前提に
考えるとして——
「世界」かよ
そうさ
「世界」単位だ
だの
吾らの知っておる
世界から何が
どこまで変わったか
確認のしようも
ないしの
大層なハナシに
なっちまったなー
とにかく
その前提で
いくと最大の
「矛盾」は…

吾ら自身
そうさ
とにかく
なぜアタシらが
「取り残された」
のかが問題さ


オレら…？
なんだよな…
大町もオヤジも
違ったのに…
なんでオレが
混じってんだ？
そこがわかんねぇ

……
そのことに
ついては
吾に
心当たりがある
ことこれに
ついては
遠因は吾にある…
？

もう少し
調べてみぬと
確証は持てぬが…
……そうか
「時」…
コク
そうだ
とかく…
吾か…
吾らかが
「時を喰らった相手」のみが
世界の変化から
取り残されておるのでは
ないか…と

なるほどな
だいたい原因がわかっただけでもスッキリしたぜ
じゃオレバイトの時間だからよ
こんなハナシ聞いた後でなんか小っちぇえけどな
そんなことないよ
このヘンのことでオレにできることないし
せいぜいノートと代返くらいまかせろ
お願い～
マジで！
帰りなすったかい
ガラ
バイトだって
それはそれこれはこれかアンタも見習いな
は～い
それはそれ…だな

ミカサ殿
とかく
此度のことに
ついてじゃ
申し訳無い
え

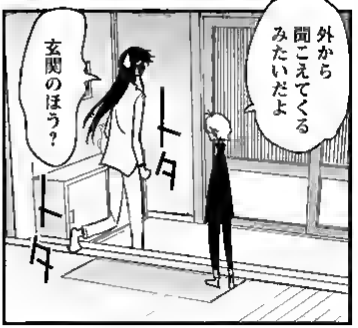
ミズキ殿を
止めるどころか
吾まで見境無く
激情に駆られて
この始末だ
えーと
約定を違えたに
等しい
この通り陳謝
する
いいや

……こういう
流れだったのかも
しれないさ
アタシらも
思い上がって
浮かれてたんだ

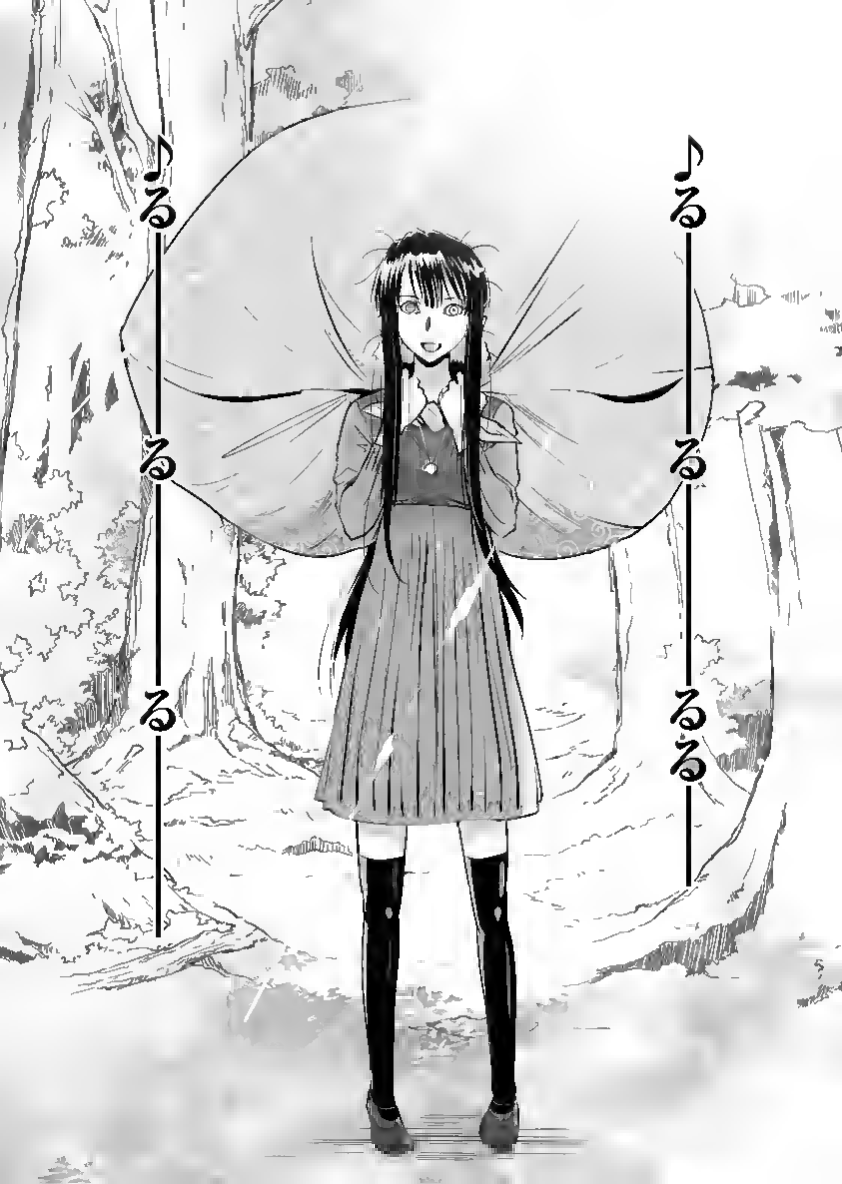
どのみち…
あそこで
アンタらが来ないまま
アタシらが死んで…
その後ミズキが
どうしたか
なんて…
もっと悪い想像しか
浮かばないね
しかしこれで…
いよいよミズキに
何もさせるわけには
いかなくなったさ
特に今回のは
危なすぎる…
まったく…
けっこう
大丈夫だってば
どこがだ

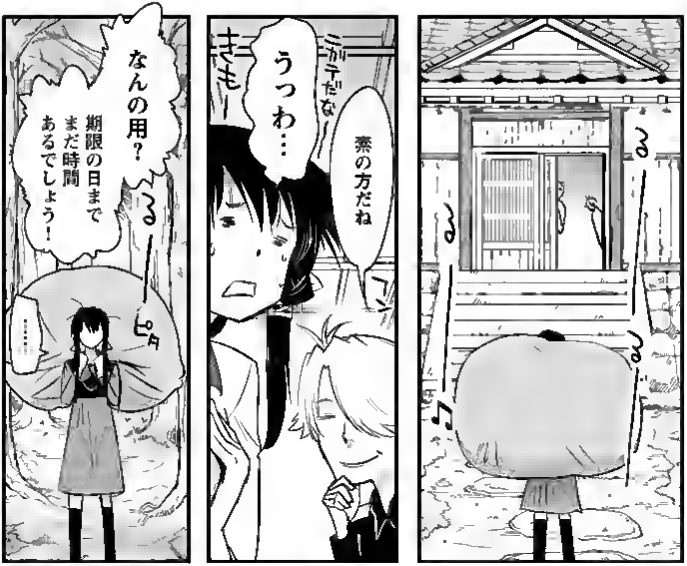
アンタ暴発寸前だったじゃあないか
うん…あのときはパンクしそうになってたんだけど
そのおかげでちょっとコツがわかったっていうか…
イヤな予感
コツ？…
うんあのね？
……？

なに？
……？
なに？
なんだいこのもの悲しいしらべは
それでいてどこか腹の立つ旋律だの
イーラル

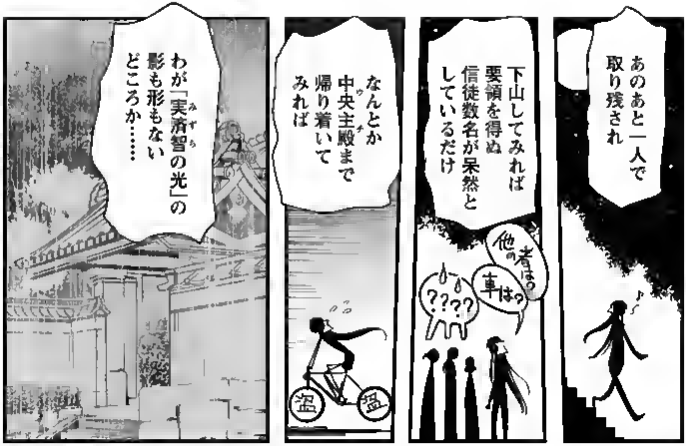

外から聞こえてくるみたいだよ
玄関のほう？
トタ
トタ

なんなの？


♪る
る
る
♪る
る
るる


素の方だね
ニガテだな
うっわ…
さむー
なんの用？
期限の日まで
まだ時間
あるでしょう！
……

わたくしには
わかります！
すべて
あなた方のせいです
なんの話？
大荷物だの


あのあと一人で
取り残され
下山してみれば
要領を得ぬ
信徒数名が呆然と
しているだけ
他の者は？
軍は？
???
なんとか
中央主殿まで
帰り着いて
みれば
盗
盗
わが「実済智の光」の
影も形もない
どころか……

教団の聖所には
見知らぬボウズ共が
千年前から
居座っていると
主張している始末
こちとら
あるじ様を
万年前から
愛してましたって
いうのに！
知らぬわ
え……
つまり…

我が栄光の
「実済智の光」が
地上に如何なる痕跡も
残さず消え失せた事
全てあなたがたの
仕業ですね!?
黒いライダーとか
どっかの国じゃ
あるまいし
一方的に
ひとのせいだって
決めつけられてもなー
あぁ
そういや
コイツも
だったね…
わかってます!!
あの…
教祖様は
どうなったの?
がってむ…

あるじ様の
気配も消えて
しまったのです!
あんな〜に一緒
だった〜のに!
歌ってる?
歌ってません!
消えた…
……

……てことは…
…一月(ひとつき)
一月
くれてやろう

あれも
ウチの地上げ問題も
ビバ タイムパラドックス☆
有耶☆無耶!!
パクった

ウヤムヤ…
あたしの一番好きな言葉だ！
面倒ごとがいっぺんに無かったことになるなんて
おおおおお
…どうかと思う

だってこれで
ヘンなひとたちと
たたかう必要も無いし
危ない力とか
使う必要も
無いんだから
いいことづくめ
じゃない
……
まあの…

騒るがいいです
平家野郎ども！
いつか壇ノ浦の
空の下で！
ニノサァ
おなかがすいて
つかれました
ところでわたくし
行くところが
ありません！
そんなこと
言われても…
めんどくさ

ふざけるんじゃ
ないわいかいけ
ギャ
バカなことを
何のギリどっかいけ
ギャ

あきらめた…？
あやつら共が？

そんな殊勝な
性(レス)のものには
見えなんだがの
第48話／完

デスレス
第七巻

・製作
六道神士

・作画補助
木林田　ウナム
たけぼんG
春夏秋冬　鈴

・担当編集
筆谷芳行
（順不同　敬称略）

YOUNG KING

http://shonengahosha.jp

電子書籍版

デスレス

7

六道神士

©2013 六道神士／少年画報社

発行・株式会社少年画報社
〒101-8388　東京都千代田区三崎3-3-12

制作：MobileBook.jp